

2 学期始業式号

令和 2 年 8 月 1 7 日発行

残暑お見舞い申し上げます



校長 小杉 栄樹

今日から2学期がスタートしました。短い夏休みでしたが、楽しい思い出ができたことと思います。

2学期には、運動会に代わる「砂山スポレク2020」、1学期はできなかった授業参観や集会、6年生の修学旅行など、子供たちにとって、楽しい行事もたくさん予定しています。

ただし、新型コロナウイルス感染症に対する対策は、1学期と同じように、いや、それ以上に気をつけていかななくてはなりません。砂山小学校のみんなが、健康に、安全に過ごしてこそその楽しい行事です。

2学期も、マスクをきちんとつける、手洗いをしっかりする、ソーシャルディスタンスを意識するなど「砂山7ルールズ」をもう一度確認して、健康に、安全に、元気いっぱい学校生活を過ごしてほしいと思います。

高校生棋士 藤井聡太棋聖 誕生！

2学期の始業式にあたり、私から、子供たちに、先月7月16日に、将棋の「棋聖（きせい）」という



タイトルを、17歳11か月という最年少で獲得した、高校生棋士「藤井聡太」さんの話をしました。17歳といえば、6年生にとっては、5・6歳しか違わない年齢です。普段は優しい笑顔いっぱいの、子供たちにとってはお兄さんのような存在ですが、将棋の盤を前にすると表情が一変し、どんな強い相手にも、全力で挑戦し、見事タイトルを獲得しました。

その藤井さんの強みは、なんといっても「AI超え」といわれる発想豊かな「指し手」にあります。人工知能、つまり、コンピュータさえ考えつかない予想外の「指し手」を何度も見せてくれます。人工知能

(AI) 全盛の時代にあって、人間の知能が秘めた可能性を身をもって示してくれました。

藤井さんは、あるインタビューで、「もし将棋の神様に一つだけ願いをかなえてもらえるなら何ですか？」という質問に対して、「もし将棋の神様がいたら、僕と一局お手合わせをお願いしたい」つまり、「ぼくと将棋をしてほしい」と答えたそうです。みなさんなら神様に何をお願いしますか？ 私なら「将棋の名人にしてほしい」や「大会で優勝したい」など答えると思います。「神様と一緒に将棋をした

い」と答える藤井さんの発想力の豊かさに感心させられました。

他のインタビューでは、「プロになったっからは、名人はめざすべきものですし、強くないと見えない景色があると思いますので、そこに立てるようにがんばりたいです」と答えています。

今、藤井さんは、「王位」というタイトルにも王手をかけて熱戦を繰り広げています。「将棋の名人」になる日も近いかもしれませんね。これからも藤井さんの活躍を新聞やテレビで注目したいと思います。

砂山小学校の子供たちにも、第2、第3の藤井棋聖をめざして、いろいろなことにチャレンジしてほしいと思います。2学期も、「読書100冊にチャレンジ」「砂山5・7・5」「あんしょう名人」にも、たくさんチャレンジしてくださいね。

「砂山スポレク2020」開催について

今年度の運動会についてですが、新型コロナウイルス感染症対策のため、午前中開催（お弁当なし）や種目数を減らす等、規模を縮小し、スポーツレクリエーション（スポレク）大会として行います。9月26日（土）の午前中に開催します。詳しい日程、種目については決まり次第連絡させていただきます。保護者の皆様には、健康観察等でご協力いただくことになりますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。



75回目の終戦記念日

8月15日（土）は75回目の終戦記念日でした。日本各地で様々な行事が行われました。砂山小学校でも、8月6日にすべてのクラスで平和学習を行いました。私からは、子供たちに、8月6日広島、8月9日長崎、8月15日終戦、そして、7月9日和歌山大空襲の話をしました。子供たちは、静かに真剣に聞いてくれました。和歌山大空襲を知らない子供たちも増えてきています。私自身も戦争を経験したことはありませんが、今から75年前、子供たちの祖父母、曾祖父母の時代に戦争があったことを、そして、戦争の恐ろしさ、悲惨さを語り継いでいくことの大切さを改めて感じます。ご家庭でも、「戦争と平和」について、子供たちと話し合っていただければと思います。

